

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念における行動規範を策定した。策定に当たっては全体会議の場を利用して、全員の意見を汲み取る上でKJ法を用いた。理念共有を図る上で、玄関に理念と行動規範を掲示し、広報誌にも理念を掲載している。職員に限らず、ご利用者にも理念を知って頂く上で、広報誌を職員と一緒に観て楽しまれている。	開所当初職員全体で話し合い作成した理念について再度話し合い、今年度行動規範を策定し、広報誌に載せて家族や地域にも配布すると共に利用者にも知っていただくように努めてきた。管理者と職員はその理念を共有し、折に触れ話し合う機会をもち関わりの拠り所としながら日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベントの際などでは、施設の駐車場を解放してご利用頂いている。同時に、ご利用者がイベントに参加させて頂くことで、地域住民との交流の機会となっている。定期的に地域に回覧頂いている広報誌は、施設事業と認知症の啓蒙に寄与していると認識している。	地域の行事には積極的に参加しており、日ごろから畑の作り方を教えてもらったり、そのため苗物をいただいたりと気軽な付き合いが出来ている。特に地域の小学生の訪問時など利用者の表情は生き生きとして活気に溢れている様子が感じられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の総合学習の受入。ボランティアの受入。夏祭りの開催など施設に来て頂くことで、地域貢献に努めた。特に施設夏祭りの来場者は年々増えており、施設に来やすい環境、認知症への理解が深まってきたものと認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年数を重ねるなかで、地域の代表者の方を通じて、地域住民の声や要望が聞かれるようになってきた。また、ご利用者からの職員が把握できないような潜在化した要望は、介護相談員からの情報を会議の場で提起し、サービスに繋がるように一緒に検討を行っている。	会議では状況報告及びサービスの実際についての報告と共に、市の介護相談員からの情報等を基に意見交換が行われサービス向上に繋げている。開催ごとに家族への参加依頼に努めているものの現時点では家族の都合をいただけない状況にもあり、毎回の参加は叶わない苦しさもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者は、気兼ねなく相談できる関係にある。また、定期的に市の介護相談員が訪問して下さる。ご利用者が職員に遠慮されて、汲み取りが困難となっているような要望も、介護相談員から間接的に伺うことでサービスの向上に繋がっている。	定期的に市の介護相談員からの訪問を受け、利用者一人ひとりとの相談の中で、日ごろ職員が気づかない要望を引き出してもらうこともあり、一緒に支援の検討を行う等でも相談できる関係性にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は、マニュアルに取入れてあり、いつでも閲覧出来る環境にある。気づかぬうちに言葉の拘束が考えられることから、「スピーチロックの廃止」と題して内部研修を行い、職員間で注意喚起を意識づけた。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を定期的実施し、職員の共有認識を図っている。また、玄関の施錠はせず利用者の様子を伺いながら散歩やドライブの時間を設け、利用者の気分転換に心がけている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的な虐待は、皆無との認識である。「テレビを何時間も観たままである」「一人ですることもなく、ポーツとしている」といった状況をセルフネグレクトと捉え、ご利用者と関わる時間を大切にする上でユニット会議で話し合った。ご利用者の笑い声が増え、活気ある施設となっている。	外、内部研修を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。また、管理者は職員の様子を見ながら声をかけたり相談事にもものる関係性が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者で成年後見制度を利用している方がいる。「成年後見制度に係わる研修」を行い、後見人の行える事務について学んだ。今では、後見人と職員とで協力してご利用者支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	報酬改定においても、重要事項説明書に基づいて説明を行い、同意の確認書類を取付けている。新規契約の際も、契約書、重要事項説明書、付随書類をもとに十分に説明を行っている。後々出てくる疑問点も、その都度お知らせ頂くように案内をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症の流行する時季など、ご家族にお願いすることが出てくる。文面でもって説明、案内を行い、それに対する要望も実現できるように取組んでいる。また、玄関の目立つ場所に意見箱も設置している。	利用者同士の何気ない会話の中から意見や要望を引き出せるように心がけ、家族からは面会時に何でも話してもらえぬ雰囲気づくりに努め、いただいた意見は会議や朝礼時に話し合い運営に繁栄させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者による職員の意見や提案を聞く特別な機会は設けていない。いつでも意見や提案を話せる関係性にあり、必要があれば話を伺う場を設けている。代表者、管理者は意見や提案が反映出来るように取組んでいる。	管理者は日々の関わりの中でいつでも意見を聴くようにしており、職員からのアイデアの取り上げ等についても連絡ノートで職員全体に伝えていくなど、良好な運営体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間内に業務が完結できるように取り組んでいる。たまに発生する僅かな時間外労働の部分も、一切のサービス残業は行っていない。勤務表の作成に当たっては、希望休を取り入れ、有給休暇も取得できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量は把握できている。研修を受ける機会も大切であるが、力量のある職員には研修の講師をお願いしている。また、施設内研修では、講師による一方的な講義にならないように、全員が参加できるような研修となるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のあるグループホームから研修の案内がある。今年も何人かの職員がお邪魔させて頂き、知見を深める良い機会となった。また、専門職であるが、関連施設内で定期的に集まり、意見交換や勉強会を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接の段階で、ご本人の不安なこと、要望等を聞き取りしている。それを基に受入れ体制を整え、その後に発生する要望に関しても、職員間で情報の共有を図り、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接の段階で、ご家族の困っていること、不安なこと、要望等を聞き取りしている。その都度発生する要望等も、随時お知らせ頂けるように案内している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定会議において、ご利用者とご家族にとって最善のサービスを検討している。必要時は、毎月開催される関連施設における専門職会議の場で提起し、他のサービス利用に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け、たたみ物、掃除など、ご利用者が主体となって行われる活動が多々存在する。「現在のご利用者が居なくなったら、施設はどうになってしまうのか？」心配な部分が往々にしてあるが、職員、ご利用者が協力し合う良好な関係が作られている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見やバーベキュー、日帰り温泉など、ご家族のイベントにご利用者が参加出来ており、良好な家族関係が保たれている。また、施設での調理レクの際は、一緒に食事を摂る機会として、ご家族へも来所を働きかけている。	自宅に家族が集まる行事の機会には利用者が自宅に帰り、家族と共に和やかな時間を過ごせるよう支援している。また、外泊についても相談をもちながら家族と共に支え合う姿勢をもち、衣類の入れ替えや必要品について持参していただく等、一緒に考えていける自然な関係を心がけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へ柿やザクロをもぎに帰ったり、ご自宅の近所の酒屋、コミセンなどに行って、知人と話す機会を持ったりしている。他にも、ドライブで祭りが開催される神社を訪れると、当時を思い出して大変喜んでくださる。	利用者が今まで馴染んできた地域との繋がりを大切に、行きつけの理美容院や商店の利用継続を支援している。近隣の方々とは気軽に挨拶を交わし、馴染みの人たちとの会話を楽しんだり、ドライブで懐かしい場所へ行ってみたいと家族の協力を得ながら交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が、他のご利用者の起床の言葉かけを行う。洗濯物が乾くと、ご利用者が他のご利用者に、一緒に行くように言葉かけを行う。ご利用者が食器を洗い終わると、他のご利用者に拭いて頂くために、濡れた食器を持って行かれる。お互いが出来る活動を理解し、支え合っている関係にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了事由の多くは、併設の特養への入所となっている。契約終了後も相談員を通じて、状態の確認や助言などを行っている。ご家族も施設行事などを通じて顔を合わせる機会があり、相談事や困っている事は話を伺い特養へ繋いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議、介護相談員、センター方式の活用など、意向の把握を行うツール、機会は確保している。一番大事に考えるところは、何でも話せる関係づくりであり、ご利用者と関わる時間を大切にしている。	センター方式のアセスメント表を用いて、本人、家族から暮らし方の希望や意向を聞き取ると共に、日々の関わりの中でも声をかけ把握に努めている。また、2ヶ月ごとに市の介護相談員の訪問を受ける等、何でも話してもらえる機会を設け、本人本位に検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用においては、初期面接の段階で確認している。入所の段階で全職員へ説明を行い、随時ケースファイルから確認できる状態でもある。生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境は初期面接での確認事項であるが、日常での関わりの中からも発見できることが多い。	利用前の自宅訪問の中で生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方について把握すると共に、前事業者からの情報を得て職員間で共有し、本人や家族と馴染みの関係を築きながら、日々の中でも本人をより深く知る積み重ねを心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てのご利用者において、一日の過ごし方を全職員が把握している。心身状態の変化はバイタルサインチェックやその際の言葉かけ、確認により把握に努めている。必要時は送りを行い、全職員で共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や面会時などに話し合いをしている。ご利用者、ご家族の要望や意見の抽出が難しいなかで、アセスメント時に全職員が関わり、ご利用者の場面場面での言葉を大事にしている。、利用者本位の介護計画になるようにチームで協働している。	センター方式のアセスメント表を基に本人、家族、職員全体で話し合いをもち、カンファレンス、モニタリングを繰り返しながら、本人の意見が反映されるよう現状に即した介護計画を作成し、職員はケアの方向性を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果においてはケース記録、サービス実施表に記している。また、毎月末に振り返りをモニタリングとしているが、気づきや工夫を記録するに乏しい。気づきが介護計画の見直しで大切である事を職員間に周知し、各職員の洞察力の向上、適切な介護計画に繋がるように取組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員のみ配置される施設であるが、協力病院の看護師、併設施設の看護師、栄養士、リハビリ職など連携体制にある。救急時の処置や歩行器の使用法、療養食の相談など他職種が関わり、随時生じるニーズに対応できる体制にある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑に植える苗を持ってきてくださる地域の方、畑を耕運機で耕してくださる地域の方、食材を納入して下さる近所の農協、スーパー。ソフト面、ハード面で多くの資源に支えられながらホームでの生活が送られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医への継続支援と協力病院での診察について説明を行っている。歯科、整形外科、皮膚科など、新たな疾患においても協力病院からの紹介状により、適切な医療が受けられる体制となっている。	家族からの要望を受け、かかりつけ医への通院は職員により行われている。特に協力医療機関とは日常的に状態報告等、受診を通して連携を図っている。また、他科への受診の必要が発生した場合には、速やかに紹介状をいただくことが出来、適切な医療が受けられる体制整備のあることは本人、家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、定期の診察日に気づいた点や情報を提供している。また、診察日以外でも協力病院へ電話連絡によって、随時指示を受けられる体制となっている。また、急変時や日曜、祭日も協力病院にて対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、施設で着替えや身の回りの物を準備して届けるようにしている。また、面会に伺うことで勇気づけられるようにしている。退院に向けては、病院でのムンテラに参加して、施設に戻ってからカンファレンスを実施している。また、協力病院でフォローが出来るように、入院先の病院の情報を協力病院へ提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の参加によるサービス担当者会議を活用している。ご利用者、ご家族が最も不安に感じている終末期や重度化した際の方向性も、協力病院、併設の特養、関連施設が協力体制にあることを十分に説明している。早い段階から上記の説明を行うことで、安心に繋がっていると認識している。	利用者の重度化や終末期の対応については、入居契約時に事業所の方針について説明し理解を得ている。利用者、家族の思いに応えられるよう事業所で出来ることを説明し方針を共有し、協力病院との連携を図りながら要望に沿った終末期ケアの取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応、協力病院への手配等において全職員に研修を行っている。また、隣接する施設からの看護師のヘルプの体制も出来ている。全職員が受講済みであるが、今年度もAEDの取扱い研修を実施した。	緊急時、事故発生時の対応方法については全職員参加のもと研修を行っている。医療面については協力病院の看護師から、AEDの取り扱いについても業者による研修を重ね、緊急時に落ち着いて行動出来るように努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全国での土砂災害、水害などのニュースをみる度に、マニュアルの確認を徹底した。また、今年度は初めて地震を想定しての訓練を行った。地震から誘発される火事などの二次災害は想定しない訓練であったが、ご利用者、職員の動きを確認する上で有意義なものとなった。	災害対策マニュアルを確認しながら年2回消防署の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施している。近隣への訓練への協力呼びかけについては、地区長から伝達されているが、現時点では協力体制整備される段階まで至っていない現状がある。備蓄に関しては交換中であるが、食料のほか暖を凌げる備品についても整備段階にある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関わる研修を実施した。これまで疎かになっていた事を反省し、居室の入室に当っては声をかけてからと統一した。また、ご利用者との関係が親密に成るなかで、慣れによる言葉の乱れが出ないように職員間で注意喚起を行っている。	職員は「プライバシーマナーマニュアル」について研修を実施し、利用者との関わりの中で馴れ合いな言葉がけにならないよう態度や姿勢に注意している。個々の関わりの中でも、心身の状況やその場の利用者の気持ちに配慮した対応を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てのご利用者が思いや希望を表することができる。ただ、場面場面で、他のご利用者との関係性から思いや希望を我慢される方がいらっしゃる。その場合は、個別で話を伺うなどその方の思いや希望が疎外されないように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴においては、一日の早い時間帯でご利用者へお知らせしている。ご利用者の都合に合わせ、ご希望の時間帯で入浴できるように取組んでいる。余暇時間は、テレビを観て過ごす時間を減らし、希望を取り入れたレクの時間が充実するように取組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、介助が必要な方も鏡の前へ誘導して、ご自分で整髪できるように支援している。ご希望される際は、行きつけの床屋へ通えるように付添介助を行っている。入浴時の着替えも、ご利用者と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛付、配膳、洗い物、米とぎなど、ご利用者各々に分担が出来ている。また、リビングに掲示されるメニューも、ご利用者が記入されることによって、次の食事の楽しみへと繋がっている。ご利用者各々が役割を持つことによって、お互いが敬う関係となっている。	食材の仕入れや献立については法人の方針で委託業者を利用している。リビングには利用者によって書かれた当日の献立表が一層食事の場を和ませている。食事作りや盛り付け、配膳、下膳、後片付け等、家庭での延長線上にある雰囲気職員と共に行われ、一人ひとりの力を発揮して食事を楽しめる雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理においては協力病院、併設施設の栄養士と協働している。食事が全く摂れなくなったご利用者がいるが、栄養を確保する上で、協力病院の協力を得て捕食や点滴を施行している。また、水分量を確保する上で、インアウトチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の口腔内の状態によって歯磨き粉、洗口液、舌ブラシ、歯ブラシを使い分けている。夜間は職員の管理により、義歯の消毒を行っている。必要によって仕上げ介助を行っているが、自力動作を促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全てのご利用者がトイレで排泄できている。入所後、年数を重ねているご利用者が多く、殆どの方が入所当時の排泄機能を維持されている。夜間はホータブルトイレを使用される方がいるが、全職員がオムツに頼らないように、排泄機能の維持に努めている。	個々の排泄パターンを把握することで、日中は全員の方にトイレでの排泄を基本として誘導を行っている。職員間で一人ひとりの状況について連絡し合い、排泄の自立に向けた支援や機能低下防止に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期受診の際に、排便困難時の相談を先生に行っている。下剤や浣腸に頼ることもあるが、利用者各々のサービス計画において歩行機会の確保、レクリエーションなど、体を動かす機会を設けることで自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望が尊重されるように、曜日や時間帯を職員主導で決めることはない。朝の早い時間帯に入浴の希望をとり、ご利用者がその日をご自分のペースで過ごせるように取り組んでいる。時期によって、菖蒲湯やゆず湯などを行うことで、季節を感じて頂けるように支援している。	入浴日、時間は決まっておらず利用者の希望に基づいた入浴支援を行っている。希望があれば夜間入浴も可能である。ゆず湯や菖蒲湯等、季節に応じた工夫もなされ、ゆったりと気持ちよく入浴できる配慮がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者によっては寝つきが悪い方がいるが、昼夜逆転がないように、また夜間安眠できるように、日中を活動的に過ごせるような関わりを行っている。日中、休息をされる方も僅かにいるが、多くの方々が日中を活動的に過ごすことで夜間の安眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の付添による定期受診を行っている。内服薬、外用薬が変更される際は、先生がご利用者と職員に分かりやすく説明して下さる。受診から戻った職員は、薬表に基づいて他の全職員に申し送りを行うことで、目的や副作用における理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事においては、ご利用者から教わる部分が多々ある。草取り、畝づくり、種まき、水くれ、収穫の一連の流れをご利用者、職員が協働し、最後に一緒に召し上がることで、大きな張り合いや喜びとなっている。他にも家事作業において、多くの方が役割をもっており、張り合いになっていると感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に左右されるが、毎日職員と一緒にゴミ捨てに出掛けている。また、ご利用者のその時に生じる希望に合わせて散歩を行っている。自宅へ柿をもぎに行ったり、親類の帰省に合わせて自宅に顔を出せるように、ご家族と連絡を取りながらご利用者の要望に応えられるように支援している。	自然との触れ合いを楽しめる機会を設けて、季節に応じて郊外ドライブや外食等で外気に触れ、気分転換の機会ともなるよう配慮している。また、住み慣れた自宅の果物の収穫に出かけ、地域と触れ合う機会となるよう家族の協力を得ながら利用者の希望に添った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は施設で行っている。なかには多少の現金をご自分で管理されている方もいる。美容室へ行った際や買物の際、縁日に行った際など、ご自分でお金の支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を引いて、親類と自由に電話されている方もいる。他にも事務所の電話を使用して、いつでも電話ができる環境となっている。毎年のごことではあるが、暑中見舞いと年賀状はご利用者に直筆で書いて頂き、ご家族へ送っている。ご家族から返信を頂くこともあり、お互いの励ましとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾やご利用者の創作された作品、外出時の写真などを掲示している。ご利用者同士が談笑しながら、ご覧になる場面をよく目にする。採光を心掛け、天気の良い日はテラスを活用することで、リフレッシュできるように支援している。	利用者による手芸や手作りの作品が飾られ、明るく季節感を感じさせる居心地の良い空間づくりがなされている。テラスからは二王子岳を眺めながら利用者がゆったりと思いに過ごされる工夫が施され、リビングには職員が利用者と共に調理する音や香しい匂いを感じる事が出来、生活感の溢れる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	四畳半のたたみスペースがある。ご利用者同士でたたみ物をしたり、雑談をしたりして思い思いに過ごされている。冬期間、こたつを立てたこともあるが、今後もご利用者の希望を取り入れながら快適な空間づくりに努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族、職員による相談の上で、居室づくりを行っている。ベッドの位置や持ち込まれたタンスなど希望が叶うように設置している。壁面にはご自分で創作した作品や賞状、写真などを掲示して愛着ある部屋となるように工夫している。	家族に協力を働きかけながら、筆筒、寝具、テレビ等の馴染みの品々を持参していただき、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。居室内は写真、装飾品、賞状等の思い出の品々が飾られ、心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間安全にトイレに行けるように、足元にライトが設置されている。また手すりを活用しながら安全に移動できるように、ご利用者各々の動線に配慮した居室となるように検討している。転倒防止の上でも、余計な物を排除して安全な環境となるように取り組んでいる。		